

A V M

マルクール商用廃棄物ガラス固化施設

A V M えいぶいえむ

A V M (A t e l i e r d e V i t r i f i c a t i o n M a r c o u l e : マルクール商用廃棄物ガラス固化施設) は、フランスで開発されたマルクールの高レベル放射性廃液 (H A L W) のガラス固化施設である。1 9 7 8 年に実用規模施設のホット運転が開始され、現在も稼働中で、H A L W を 1 0 0 0 立方メートル以上を処理した実績がある。A V M はロータリキルン仮焼炉と誘導加熱溶融炉とからなる固化施設である。ロータリキルン仮焼炉とは、約 3 3 0 r p m で回転しながら 4 区分の外部加熱器で円筒の前半部で H A L W を乾燥しつつ、後半部で仮焼し、最後部でガラス化剤 (耐熱性ガラス) とともに溶融炉内に仕込まれる。溶融炉で溶けたガラスはキャニスター (容器) に注入され固化体となる。

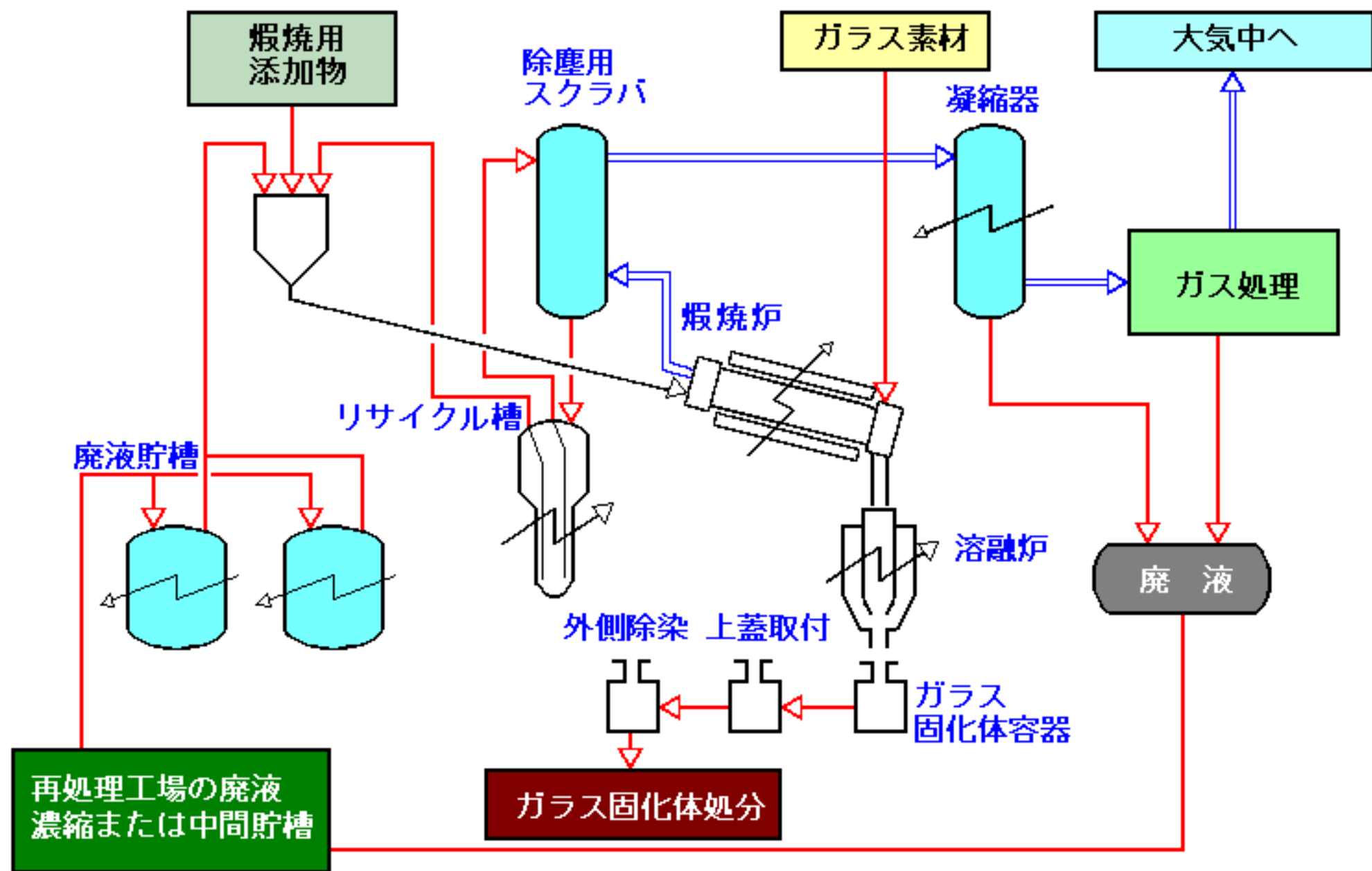
---

<登録年月>

2001年09月

---

---



フランスMarcouleガラス固化工場(AVM)で用いられている連続工程  
 [資料提供] CEA(フランス原子力庁)